

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和3年7月～9月実績

令和3年10月～12月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和3年7～9月期実績及び令和3年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和3年9月1日（水）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

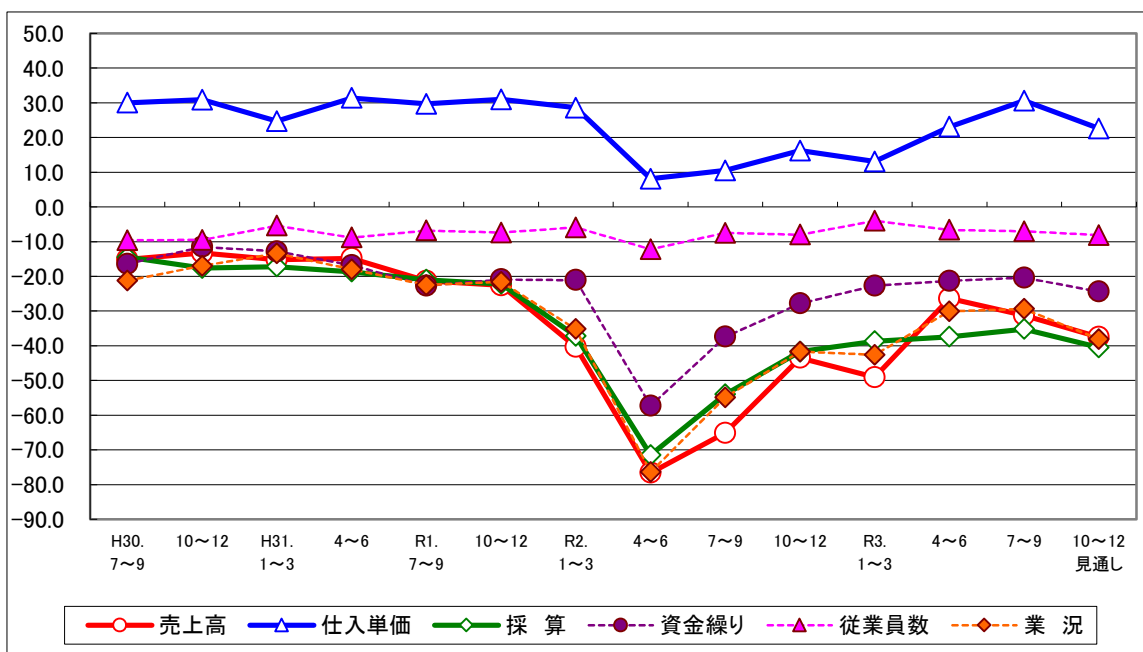
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保 勝 氏

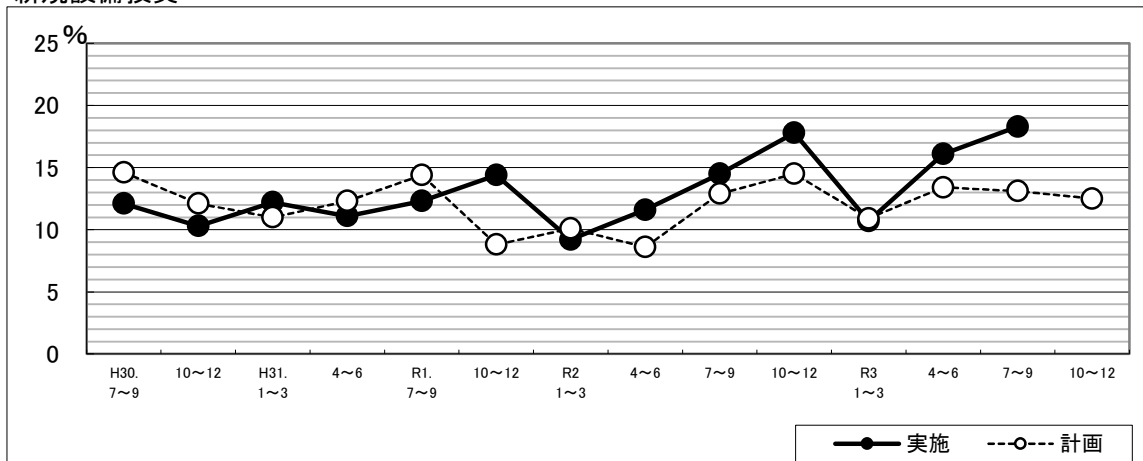
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

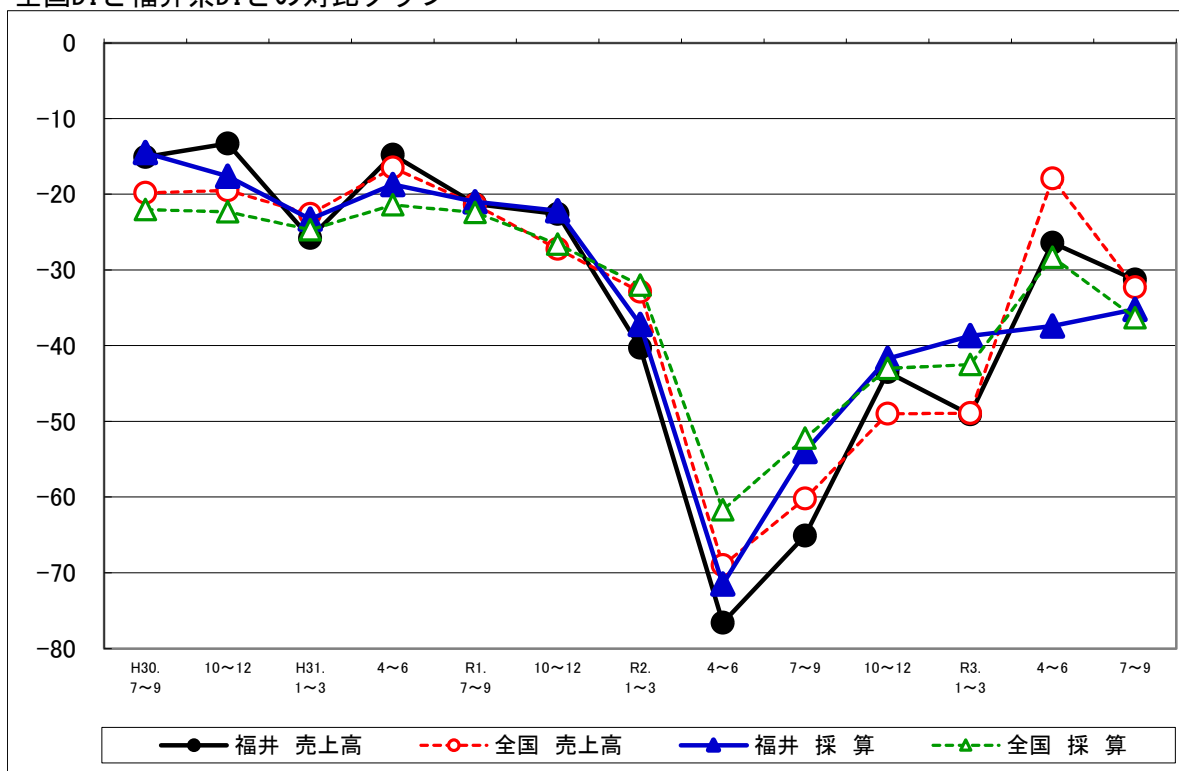
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H30.7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12見通し	▲ 37.5	22.6	▲ 40.5	▲ 24.4	▲ 8.1	▲ 38.1



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



### 全体の景況

R3年7-9月期の福井県経済を概観すると、一部で厳しさが残るものの、全体では持ち直しの状況にある。ちなみに、需要面では、新型コロナウイルス感染症の影響により、主要観光地の入込をはじめ、宿泊、飲食サービスなどは厳しい状況にあるものの、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは引き続き堅調に推移、その他、住宅投資、新車販売なども持ち直している。供給面では、化学工業で持ち直しの動きに一服感がみられるものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン需要を中心に順調に推移しているほか、地場産業の分野でも繊維工業が土木資材などの非衣料分野を中心に、眼鏡枠も海外向けなどで持ち直していることなどから、全体として持ち直しの動きが続いている。

こうした中、今期（R3年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、改善項目、悪化項目が各々3項目となり、しかもどの指標も小幅な動きにとどまるなど、前期比横ばいの動きとなっている。ちなみに、項目ごとのDI値をみると、採算が前期▲37.4→今期▲35.2へ、資金繰りが前期▲21.3→今期▲20.4へ、業況が前期▲30.1→今期▲29.4へと改善。売上高が前期▲26.4→今期▲31.3へ、仕入単価（逆指数）が前期23.1→今期30.6へ、従業員数が前期▲6.6→今期▲7.0へと悪化している。また、先行き（R3年10-12月期）については、6項目中、仕入単価を除く5項目で悪化予測となっており、来期においても余談を許さない状況が続くことが考えられる。

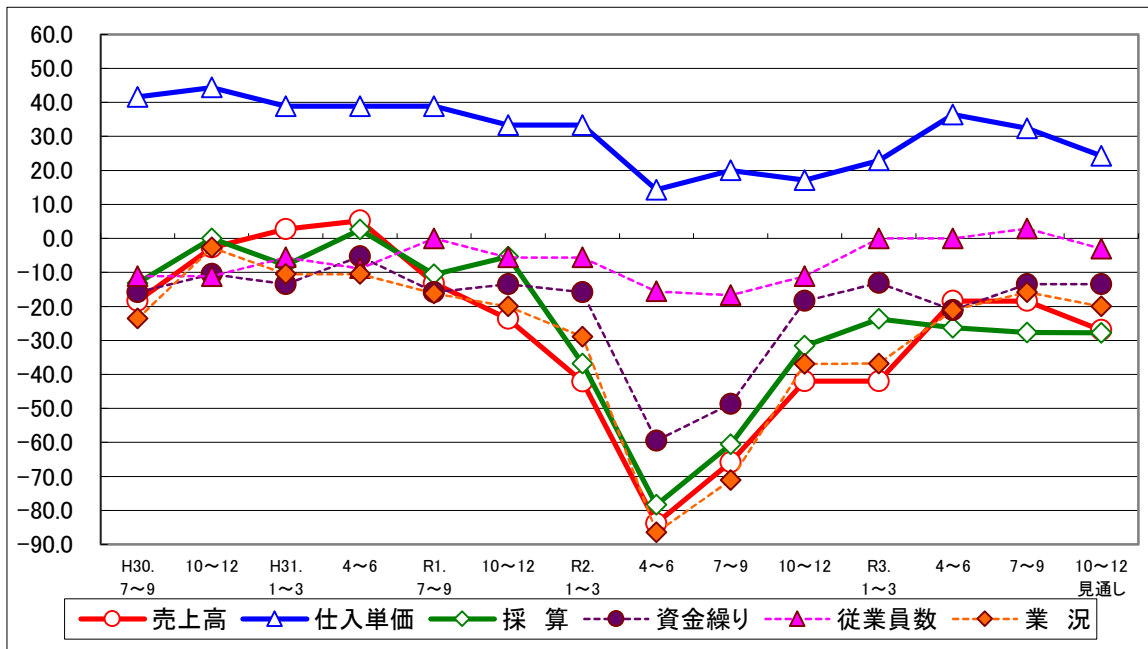
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、福井県、全国ともに売上及び採算のDI値は悪化傾向にあり、このことから、福井県の中小企業は、全国同様、前年4-6月期をボトムに持ち直しの基調にあったものの、ここにきてその勢いが鈍化していることがわかる。

そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画している企業ウエイト13.1%に対し実施した企業ウエイト18.3%と、増加したほか、先行き（R3年10-12月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが12.5%と、今期とほぼ同様の投資マインドであることが予想される。

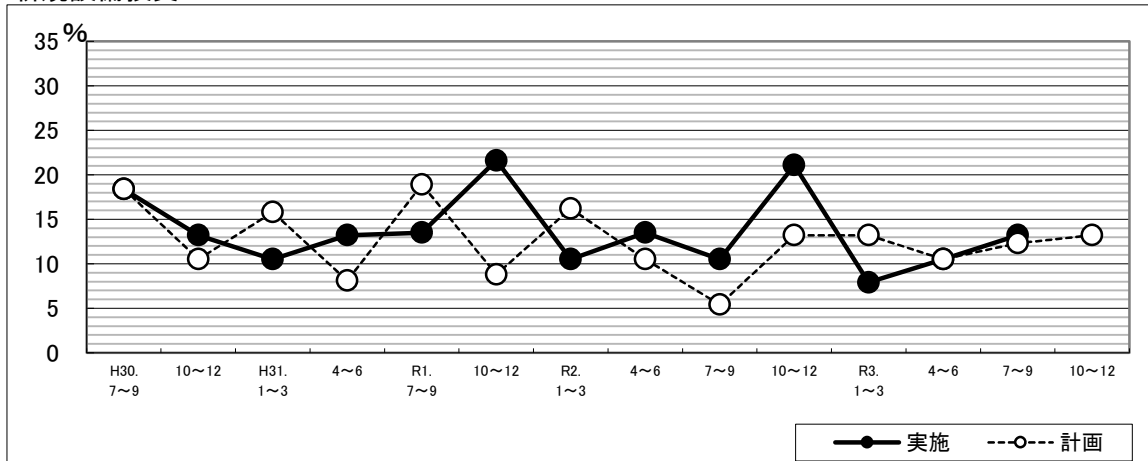
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

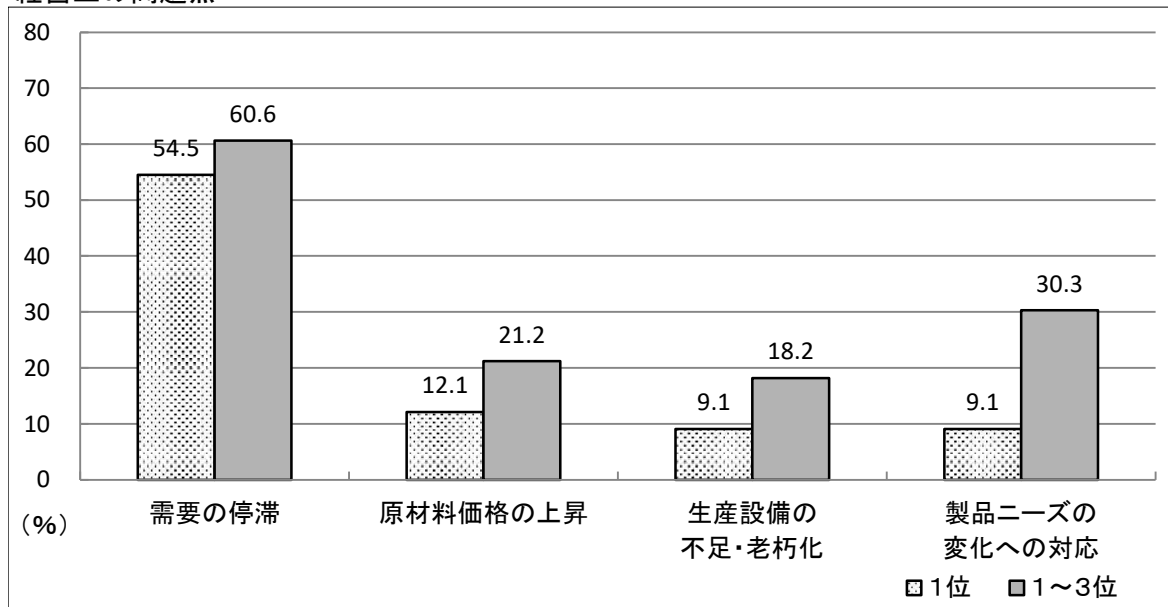
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H30.7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12見通し	▲ 27.0	24.3	▲ 27.8	▲ 13.5	▲ 3.0	▲ 20.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・引合いは増加傾向に感じるが、長引くコロナ禍で衣料などの繊維業界が大きく低迷しているので大きな引合いが見込めない。
- ・好転になってはいるが、去年が悪すぎただけであって、決して平年と比べると良いわけではない。コロナの感染拡大や研修生の受け入れ等、今後の経営において、心配事の方が多い。
- ・シャツ等の生活費必需品の製造のため、新型コロナの影響は思ったより少なく売上の変化もない。ただし、今後も今まで同様にいくかが分からないため不安をかかえている

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、電子部品・デバイスではスマートフォン向けを中心に順調に推移しているほか、プラスチック製品が建築資材等を中心に緩やかに持ち直しつつあり、生産用機械は金属加工機械が増加していることなどから、全体では持ち直しつつある。また、地場産業では、繊維工業が非衣料分野向けで持ち直しているほか、眼鏡枠もOEMを中心に持ち直しつつある。ただ、鋼材などの原料高と半導体不足には注視する必要がある。

こうした中、今期（R3年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中、売上高と採算で横ばいあるいは悪化した以外、4項目は改善が進んだ。各項目のDI値をみると、売上高が前期▲18.4→今期▲18.4、仕入単価（逆指数）が前期36.4→今期32.4、採算が前期▲26.3→今期▲27.7、資金繰りが前期▲21.1→今期▲13.5、従業員数が前期0.0→今期2.9、業況が前期▲21.1→今期▲15.8となっている。また、先行き（R3年10-12月期）については、4項目で悪化予測となっており、いまだ余談を許せない状況が続くと考えられる。

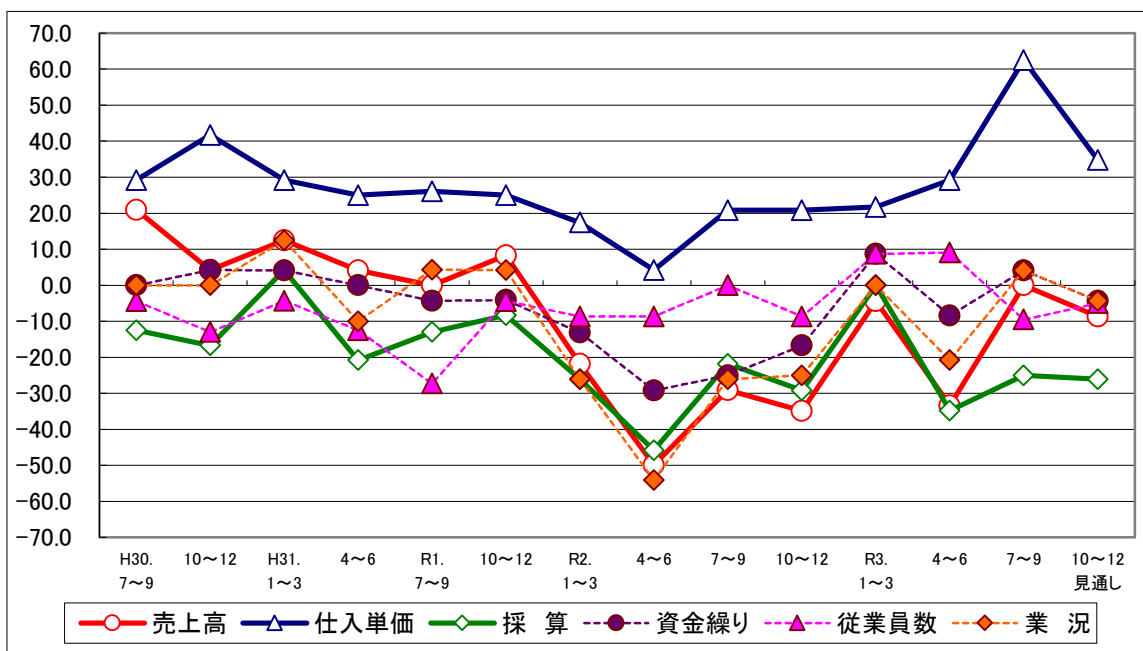
一方、新規設備投資の状況については、計画の12.3%に対し実施が13.2%となり、設備投資はほぼ計画通り進んでいる。先行き（R3年10-12月期）についても、何らかの投資を予定する企業が13.2%と、今期より幾分投資マインドの改善が期待できる。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く54.5%（1位～3位までに挙げた企業60.6%）と半数以上を占め、かなり需要が停滞していることがうかがえた。個別の見解としては、「引合いは増加傾向に感じるが、長引くコロナ禍で衣料などの繊維業界が大きく低迷しているので大きな引合いが見込めない」、「好転になってはいるが、昨年が悪すぎただけ。コロナの感染拡大や研修生の受け入れ等、今後の経営において、心配事の方が多い」など、悲観的な見解が多くみられた。

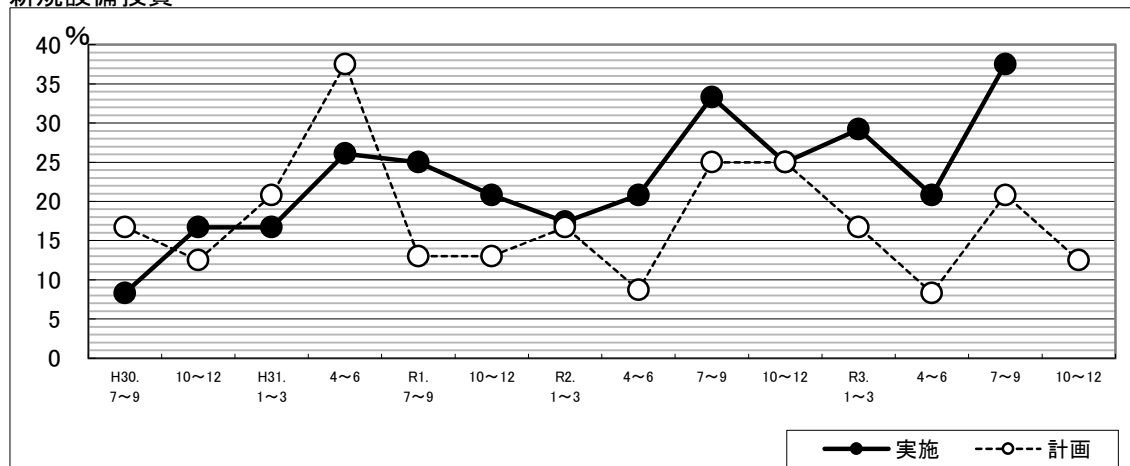
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H30.7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	4.1
10~12見通し	▲ 8.7	34.8	▲ 26.1	▲ 4.3	▲ 5.0	▲ 4.3

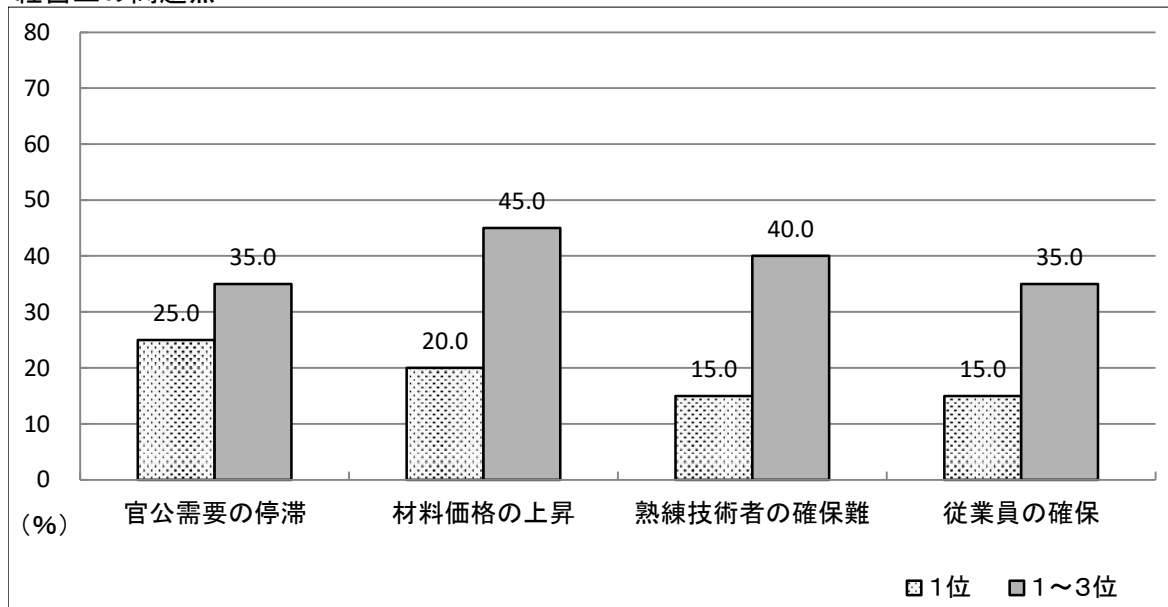


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・コロナの影響からか、官公庁の仕事が少ない。また、民間の仕事数も少ない。
- ・官需はコロナ対策中心に旺盛であるが民需は日々厳しくなっており、夏場の観光自粛や閉鎖の影響で見通しは暗い。年末年始からはさらなる民需の低下も見えてきており、リスク管理の強化が急務である。
- ・従業員が一人退職する事になり、技術者の確保が難しいと感じている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR3年度（R3年4～9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,149億33百万円の前年同期比15.0%の減少、発注件数は同2,020件の同6.6%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等関連工事が445億8百万円の同27.4%減、市町村関連工事が271億83百万円の前年同期比10.4%減となっている。一方、住宅投資については、R3年4～8月期の累計で、前年同期比40.5%増の2,260戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比11.6%増の1,148戸、貸家が同99.5%増の864戸となっている。ただ、住宅業界では、引き続き木材価格が高騰しており、今後の着工戸数の伸びに影響してくることが懸念されている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち仕入単価と従業員数を除く4項目で改善傾向となっており、価格高騰による影響、人手不足といった業界の特徴を露わにした結果となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲33.4→今期0.0、仕入単価（逆指数）が前期29.2→今期62.5、採算が前期▲34.8→今期▲25.0、資金繰りが前期▲8.4→今期4.1、従業員数が前期9.1→今期▲9.5、業況が前期▲20.8→今期4.1となっている。また、先行き（R3年10～12月期）については、仕入単価、従業員数で改善が期待できるが、それ以外の項目は厳しい予想が建てられている。

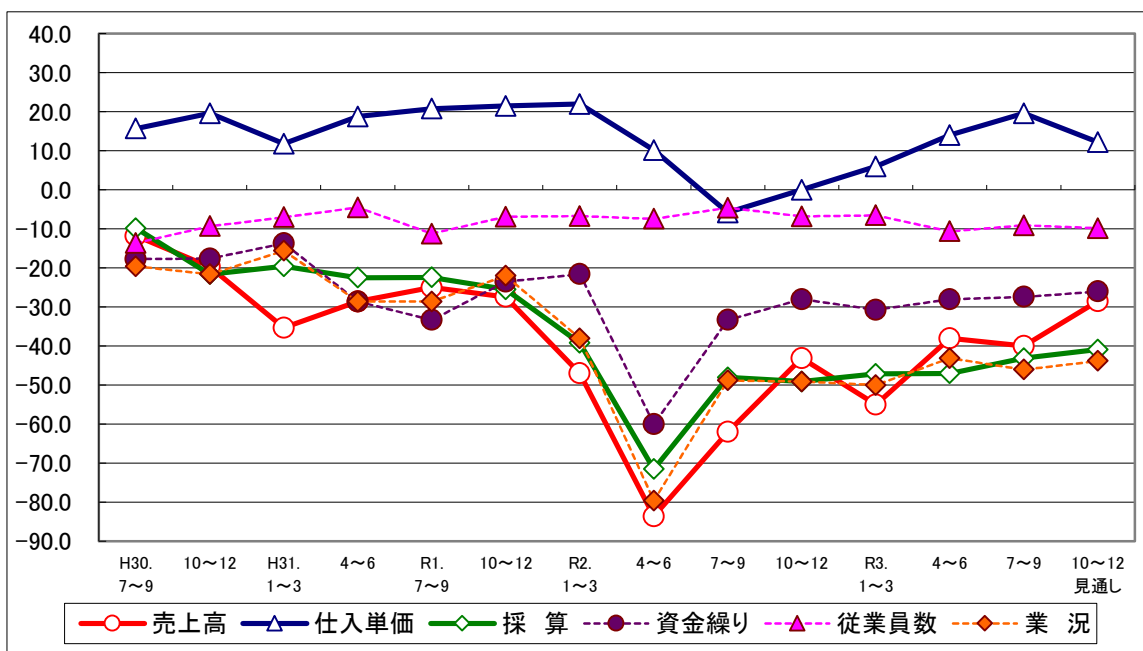
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業20.8%に対し実施した企業が39.5%となり、投資マインドは堅調な動きを示した。また、先行き（R3年10～12月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の12.5%にとどまり、今期と比べ投資マインドの停滞が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「官公需要の停滞」で最も多く25.0%（1位～3位に挙げた企業35.0%）を占めた。次いで、「材料価格の上昇」（1位に挙げた企業20.0%、1位～3位に挙げた企業45.0%）が続いている。その他の見解としては、「コロナの影響からか、官公庁の仕事が少ない。また、民間の仕事数も少ない」、「年末年始からはさらなる民需の低下も見えてきている」など、悲観的な声が聞かれている。

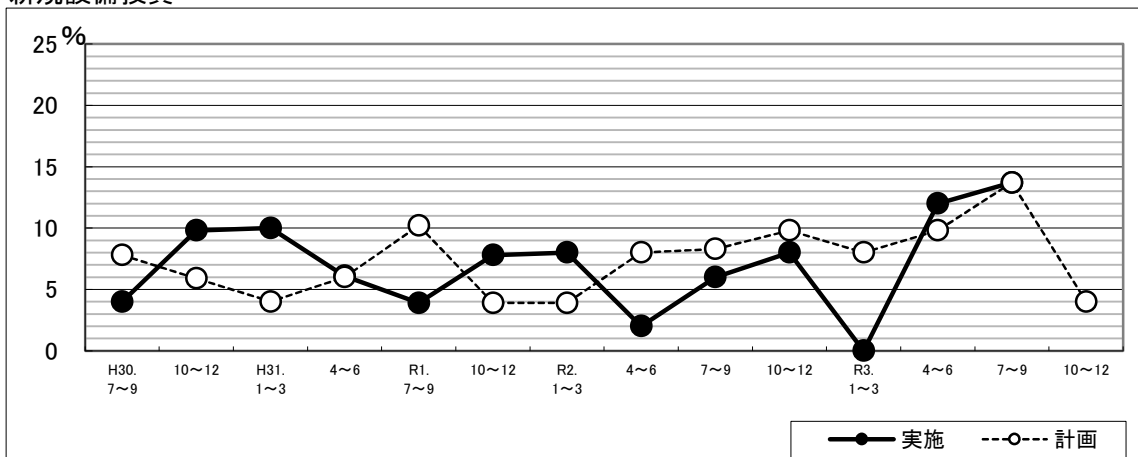
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

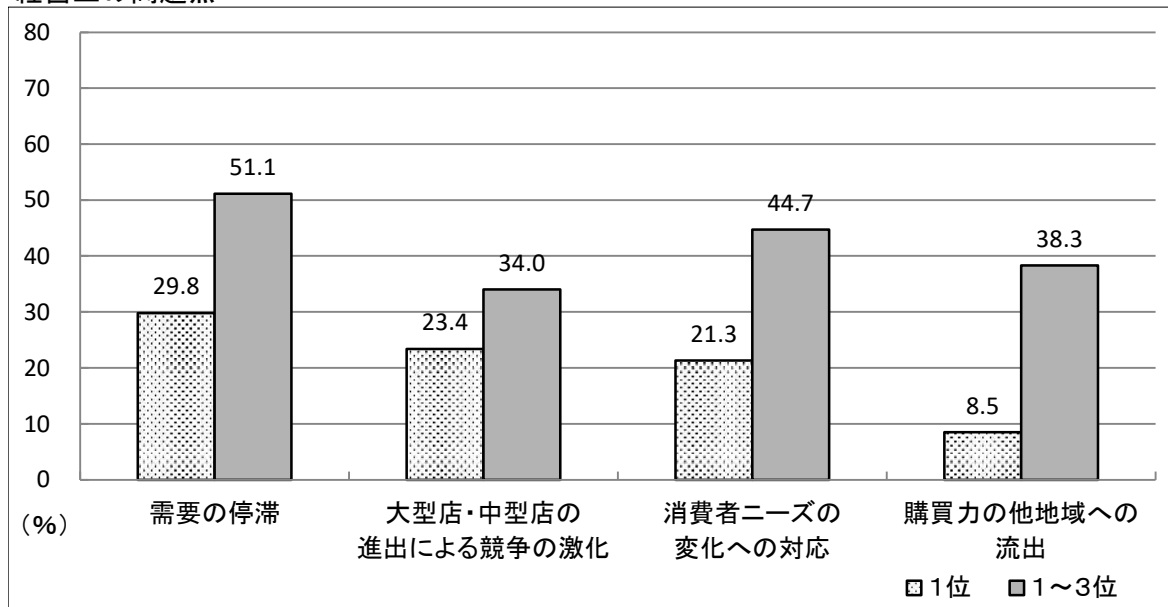
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H30.7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12見通し	▲ 28.5	12.2	▲ 40.9	▲ 26.0	▲ 9.8	▲ 43.8



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 今期は入札受注が発生し、売上増になったが、通常販売は横ばい状況。コロナ禍においては頑張った感がある。今後の通常販売が不安。メーカー等と相談し、対策を考えてる。
- ・ 飲食部門がとても営業しにくい状況、同じく宿泊部門も客が来ない。どうにかしてきてもらう状況をつくり出すかの知恵を絞る必要がある。
- ・ 新型コロナの影響で客足が減少。単価はあまり変化ないので売上が3~5割減少している。県の給付金等で何とかしているがいつまでもつか分からない状況である。

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの店舗で厳しい状況にあるが、引き続き、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは、巣ごもり需要をキャッチし売上を伸ばす例もみられる。参考までに、近畿経済産業局が公表する8月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）をみると、衣料品は不冴えながら、巣ごもり需要関連の飲食料品や家庭用電気機械器具、DIY用品等の売れ行きがよいことから、前年同月比で1.8%増加し、73億54百万円と、2か月連続の増加となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中3項目で改善傾向となっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲38.0→今期▲40.0、仕入単価（逆指数）が前期14.0→今期19.6、採算が前期▲47.0→今期▲43.1、資金繰りが前期▲28.0→今期▲27.4、従業員数が前期▲10.6→▲9.1、業況が前期▲43.1→今期▲46.0となっている。先行き（R3年10-12月期）については、従業員数を除いて5項目で改善予測となった。

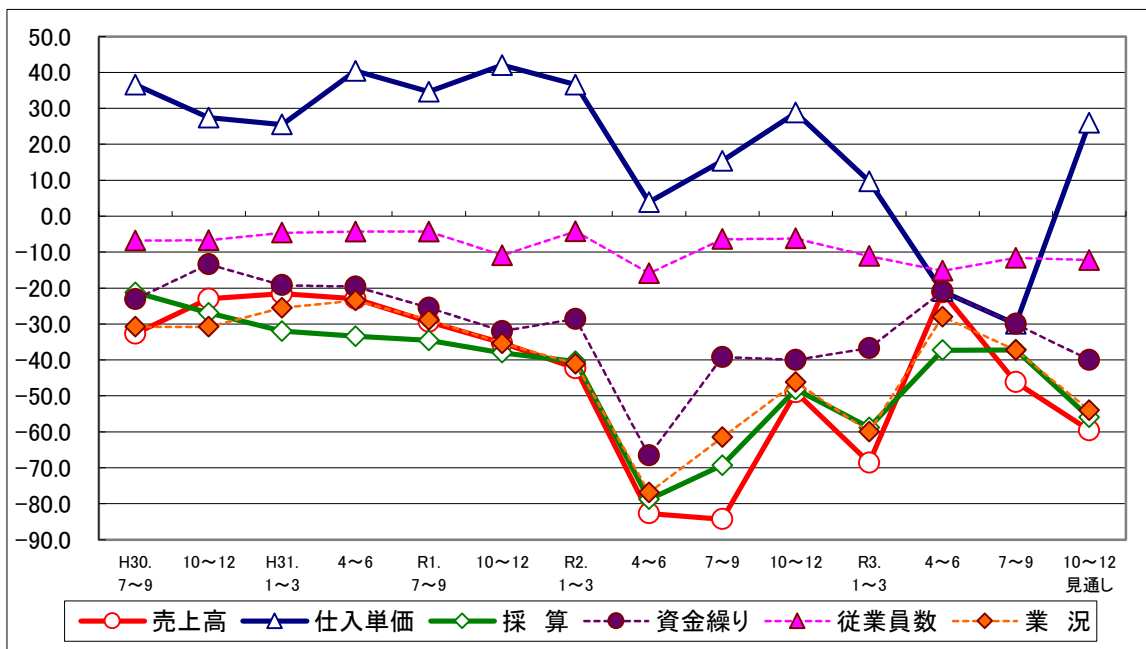
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の13.7%に対し実施は13.7%となり、計画通り実施されたが、先行き（R3年10-12月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが4.0%にとどまり、今後の投資マインドは厳しさを増すことがうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト29.8%、1位~3位までに挙げた企業51.1%となった。その他の見解としては、「飲食部門がとても営業しにくい状況、同じく宿泊部門も客が来ない」、「新型コロナの影響で客足が減少。単価はあまり変化ないので売上が3~5割減少している」など、コロナ禍で厳しい経営環境にある実態が読み取れた。

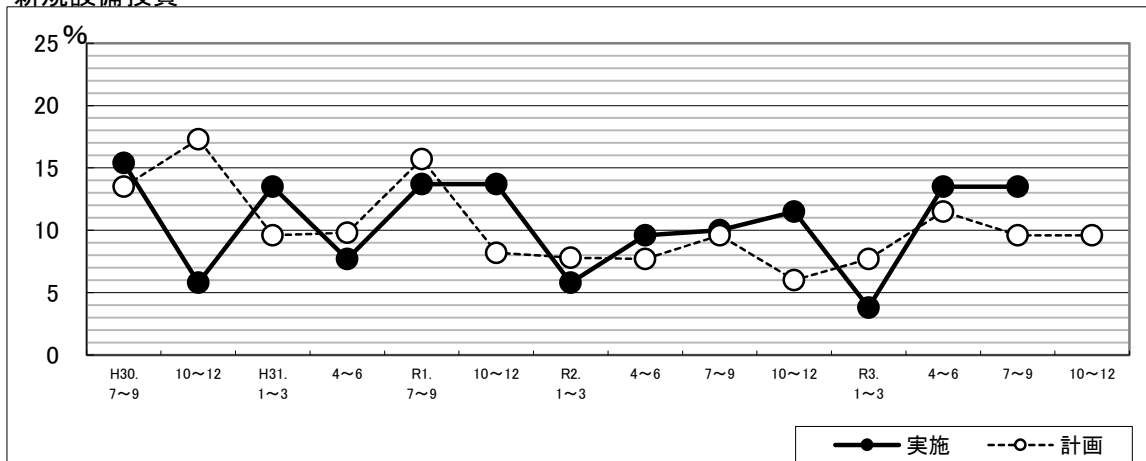
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

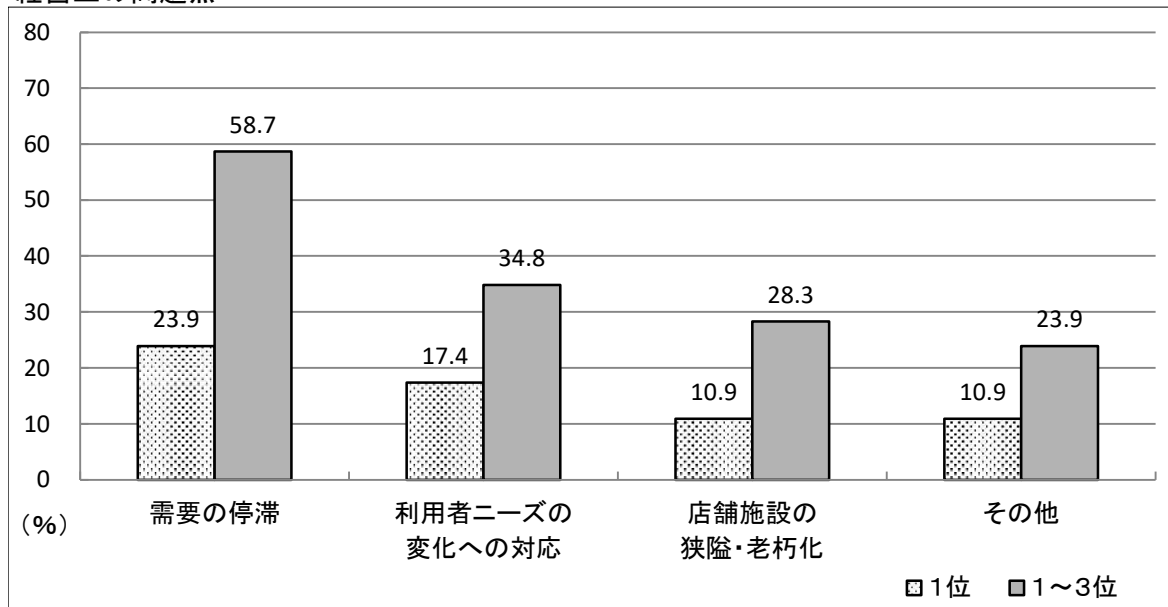
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H30.7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	▲ 20.9	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	▲ 30.0	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12見通し	▲ 59.6	26.0	▲ 56.0	▲ 40.0	▲ 12.2	▲ 54.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・コロナ収束がまだまだなのでイベントもなく来客が減少するばかりで、借入金の返済や新規借入に頭を抱えている。打開策を練ってはいるが、今の世間では焼け石に水だと思う。
- ・コロナ禍でこの2年間来客が激減。スポーツ関係、ナイター後の飲食も全て無くなり、せめて低価格でのテイクアウトを続けているもののアルコールが出ないかぎり売上は厳しい毎日、コロナ終息後も客足が戻るか心配。
- ・コロナキャンセル、台風、大雨キャンセルによって、できるはずの設備投資ができない。

## サービス業の景況






総務省が毎月実施する「特定サービス産業実態調査」によると、全国におけるR3年7月のサービス産業の売上高は、29.7兆円。前年同月に比べ2.5%の増加で、4か月連続の増加（前々年（2019年）同月に比べ10.8%の減少）となった。増加した産業は、「運輸業、郵便業」、「サービス業（他に分類されないもの）」など6産業で、減少した産業は、「宿泊業、飲食サービス業」、「不動産業、物品賃貸業」など3産業であった。一方、サービス産業の従業者数は、2,929万人で前年同月比0.3%の減少となっている。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）、採算、従業員数の3項目で改善傾向を示している。ちなみに、項目別の指数を見ると、売上高が前期▲21.2→今期▲46.2、仕入単価（逆指数）が前期▲20.9→今期▲30.0、採算が前期▲37.3→今期▲37.2、資金繰りが前期▲20.9→今期▲30.0、従業員数が前期▲15.2→今期▲11.6、業況が前期▲28.0→今期▲37.3となっている。また、先行き（R3年10-12月期）については、6項目全てが悪化予測となっており、県内サービス業では引き続き厳しい経営環境のまま推移することがうかがえる。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が13.5%となり、堅調な投資動向となった。先行き（R3年10-12月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが9.6%となり、今期並みの投資活動が予想される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト23.9%、1位～3位までに挙げた企業58.7%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「コロナ禍でこの2年間来客が激減。スポーツ関係、ナイター後の飲食も全て無くなり、低価格でのテイクアウトを続けているもののアルコールが出ないかぎり売上は厳しい」、「コロナキャンセル、台風、大雨キャンセルによって、できるはずの設備投資ができない」など、悲観的な声が多く聞かれた。

全国・福井景気動向 令和3年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 32.3	34.3	▲ 36.3	▲ 23.2	▲ 5.6	▲ 33.8
	製造業						
	DI値	▲ 12.6	49.0	▲ 23.2	▲ 15.1	▲ 6.6	▲ 18.0
	建設業						
	DI値	▲ 20.1	57.3	▲ 26.2	▲ 10.0	▲ 5.7	▲ 16.5
	小売業						
	DI値	▲ 42.9	23.3	▲ 44.0	▲ 28.0	▲ 2.9	▲ 43.9
	サービス業						
DI値	▲ 41.3	25.3	▲ 41.8	▲ 29.4	▲ 6.9	▲ 42.3	
福井	全体						
	DI値	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
	製造業						
	DI値	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
	建設業						
	DI値	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	4.1
	小売業						
DI値	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0	
サービス業							
DI値	▲ 46.2	▲ 30.0	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

